

平成21年度図書館情報メディア研究科プロジェクト研究 研究成果報告書

| | | | | |
|---|-----------------------------|--------|--------------|------|
| 種 目 | プロジェクト研究 | 外部資金獲得 | 研究代表者 氏 名 | 植松貞夫 |
| 研究課題 | 多様化する社会への適応を目指した図書館サービスの再構成 | | | |
| 研究組織（研究代表者及び研究分担者） | | | | |
| 氏 名 | 所属研究機関・部局・職 | 現在の専門 | 役割分担 | |
| 植松貞夫 | 筑波大学・図書館情報メディア研究科・教授 | 図書館情報学 | 統括 | |
| 石井啓豊 | 筑波大学・図書館情報メディア研究科・教授 | 図書館情報学 | モデル論 | |
| 逸村裕 | 筑波大学・図書館情報メディア研究科・教授 | 図書館情報学 | サービス分析 | |
| 歳森敦 | 筑波大学・図書館情報メディア研究科・准教授 | 図書館情報学 | 利用者分析 | |
| 宇陀則彦 | 筑波大学・図書館情報メディア研究科・准教授 | 図書館情報学 | システム分析 | |
| 研究目的 | | | | |
| <p>本研究は伝統的な図書館の在り方を超えた新しいサービスモデルを構築し、将来の先導的研究の基盤と体制を構築することを目的とする。なかでも、コミュニティに属する人々の情報行動の道筋とサービス誘導の道筋の一致度に焦点をあて、情報行動に即した新規サービスを開発し、図書館サービスの再構成を行う。本研究はコミュニティとサービスのいずれにおいても、既存の枠組みにとらわれない社会の要請に適合した先進的なモデルを構築することを目指す。</p> | | | | |
| 研究成果 | | | | |
| <p>図書館のモデルとして有名なのは、ブロッフィの機能モデル（1 収集モデル、2 利用モデル、3 資源共有モデル）であるが、本研究は「オープン型学習モデル」を提案する。オープン型学習モデルにおいては、学生グループが多様な学習の様態に応じて必要な情報資源や設備を利用し、学習活動を行う場としての図書館である。学生、情報資源、設備が全てオープンであり、自由に組み替えることができる点が最大の特徴である。その中には紙媒体と電子媒体の両方をハイブリッドに利用できる電子図書館システムを構築することも含まれる。</p> <p>本研究では、オープン型学習モデルの実現に向けて、建築の側面、実習における環境整備の側面、オープンアクセスの一つである機関リポジトリ利用の側面、利用者の情報行動の側面、情報システムのデザインの側面など、多面的に研究を行い、一定の成果を得た。</p> | | | | |
| 代表的な研究発表・特許等の成果一覧、特記事項等 | | | | |
| <p>1) 植松貞夫. 近年の図書館建築の傾向. 近代建築, 63(4), p. 46-49, 2009-04</p> <p>2) 大澤文人, 石井啓豊. 知識科学実習における CMS 実習について. 図書館情報メディア研究 7(2), p.41-50, 2010-03</p> <p>3) 佐藤翔, 逸村裕. 機関リポジトリ収録コンテンツにおける利用数とアクセス元、アクセス方法、コンテンツ属性の関係. 三田図書館・情報学会研究大会発表論文集 2009 年度, p. 9-12, 2009</p> <p>4) 松林麻実子, 歳森敦, 永田治樹. 日本の研究機関に所属する研究者における電子メディア利用実態：ライフサイエンス領域の研究者を対象とした実態調査報告. 日本図書館情報学会誌 55(3), p. 141-154, 2009-09</p> <p>5) 宇陀則彦ほか 筑波大学電子図書館システムの新しい機能とデザイン. デジタル図書館 (38), p.31-34, 2010-03</p> | | | | |